

## インドネシアのイスラーム主義政党、福祉正義党の包括政党化戦略\*

岡本 正明\*\*

### はじめに

インドネシアの政治とイスラームの関係振り返ってみると、大きな社会政治変動の時には常にイスラーム勢力が政治的に台頭している<sup>1)</sup>。1998年のスハルト権威主義体制の崩壊と民主化という政治変動期にも、やはりイスラーム勢力が政治的に台頭した。1966年から32年間続いたスハルト権威主義体制のもとでは、社会的にはイスラーム化が進展したものの、イスラーム政党の樹立やイスラーム国家樹立要求運動など、政治的なイスラームの動きは否定されていた<sup>2)</sup>。スハルト権威主義体制の崩壊と民主化のはじまり、さらには地方分権化のはじまりは、こうした政治的閉塞状況を大きく変えた。さまざまなイスラーム社会組織やイスラーム政党が生まれ、その中には明瞭にイスラーム国家樹立を目指すものやイスラーム法の適用を求める組織や政党もあった。さらには、分権化によって権限を委譲された自治体のなかには、クルアーンやハディースに依拠した条例を制定するところも現れたのである。こうした政治的イスラームの顕在化のなかでも、とりわけ脚光を浴びたのが、福祉正義党(Partai Keadilan Sejahtera)であった。そこで、本稿は、福祉正義党、とりわけ地方レベルの同党に焦点を当てて、インドネシアにおける民主化とイスラームの関係を見ていきたい<sup>3)</sup>。

\* 本論文は、英文拙稿[Okamoto 2010]を加筆修正したものである。

\*\* 京都大学東南アジア研究所

- 1) 20世紀に入ってからのインドネシアにおいて、国際的潮流や国内の政治社会的情勢によって、イスラーム勢力が台頭したことが少なくとも四度ある。一度目は、20世紀初頭、オランダ領東インド(現在のインドネシア)でナショナリズム運動が勃興を始めた時期である。エジプトで起きたイスラーム改革運動の影響を受けて、1912年に中部ジャワのジョグジャカルタにおいてムハマディヤというイスラーム組織が誕生した。ムハマディヤは、当時の蘭領東インドに浸透していたイスラームがクルアーンから逸脱しており、本来のイスラームに復帰すべきだと主張を展開して、主に都市部を中心として広がっていった。1926年にはムハマディヤに対抗する形で、農村部でイスラーム指導者でありイスラーム寄宿塾(プサントレン)を所有してイスラームの普及に努めていたウラマーたちが、イスラームの土着性を強調するイスラーム社会組織、ナフダトゥール・ウラマー(Nahdlatul Ulama, NU)を設立した。NUが土着化したイスラームを尊重することから、伝統主義派と呼ばれ、そうした土着性を排除したイスラームを主張するムハマディヤは近代主義派と呼ばれるようになっていった。二度目は、日本軍政(1942年～45年)後、復帰してきたオランダからインドネシアが独立を求める闘争を始めた時代である。反オランダ闘争を行うヒズブラやサビリラなどイスラーム系民兵組織が各地で勃興した。インドネシアが独立を果たし、議会制民主主義の時代となった50年代には、ナフダトゥール・ウラマー党やマシユミ党などのイスラーム政党が有力政党として政界を彩った。三度目は、スカルノ権威主義体制の崩壊とスハルト権威主義体制の樹立期である。65年9月、スハルトを中心とする陸軍は、共産党を支持するスカルノ大統領の権力剥奪に成功する。そして、共産党の物理的解体に着手した。その際には、イスラーム勢力も積極的に共産党員狩りに参加して、スハルト権威主義体制の樹立を支持した。
- 2) 社会のイスラーム化が進展するなか、国軍とは別の権力基盤の確立という狙いもあって、1990年にスハルトは、有力イスラーム知識人の多くをメンバーとするインドネシア・イスラーム知識人教会(Ikatan Cendekiawan Muslim se-Indonesia, ICMI)を発足させて、子飼いのハビビを総裁に据えた。この動きは、スハルトによるイスラーム勢力の取り込みを目的としたものであり、政治的にイスラーム化を推進することは企図されているとは言えなかった。また、イスラーム政党ということでは、スハルト体制時代に公認されていた野党の1つである開発統一党が存在しており、政治的イスラームの主張をする可能性はあった。しかし、そもそもこの政党は、1975年にスハルト政権によって強制的にイスラーム系諸政党が統合させられて誕生した政党であり、政権側の絶えざる介入によって内部分裂していた。その上、84年には党綱領をインドネシア国家五原則パンチャシラに変えさせられ、85年には党シンボルをカバパ神殿から星に変更させられることで、イスラーム政党としての特徴を奪われてしまった。そうした意味で、スハルト体制時代には、政治的イスラームの台頭は厳しく押さえ込まれていた。
- 3) 福祉正義党についてはかなりの数の研究が生まれてきている。初期の作品で包括的なものとしては、[Damanik 2002]がある。その後、[Yudi Latief et al. 2005; 見市 2005; Ahmad-Norma Permata 2008; Greg Fealy 2008; M. Imdadun Rahmat 2008]などが著された。[見市 2005]は南カリマンタン州における福祉正義党の2004年総選挙でのキャンペーンに焦点を当てており、地方レベルの福祉正義党の戦略について描いた唯一の作品であり、その他の作品は福祉正義党が拡大するにつれて穏健化していったことを中央レベルに焦点を描いており、現実的な政治課題がより重要性を持っている地方レベルでの福祉正義党のジレンマが描ききれていない。

同党は、都市部を中心としてインドネシア各地で急速に台頭を果たしたイスラーム主義運動の政治的表現である。70年代以降の社会がイスラーム化していくなかで、98年に始まる民主化は政治的にもイスラーム化を一気に推し進める様相を見せた。その象徴ともなった福祉正義党は、99年の総選挙、つづく2004年の総選挙では急速に票数を伸ばすことに成功した。しかし、直近の2009年総選挙ではほとんど得票率を上げることなく停滞してしまった。同党は、政治的に台頭する過程でイスラーム・イデオロギーと現実政治の狭間で党内対立を抱え、結果として、選挙に勝利するという現実主義路線の前にイデオロギー闘争路線を弱体化させていった。そのことが当初から福祉正義党を支持していたイスラーム主義者たちを皮肉にも離反させてしまったのである。その一方で、思ったほど非イスラーム主義の有権者に支持基盤を広げることができなかった。一つには、社会がイスラーム化している以上、政治が安定化し始めれば「イスラーム性」は政治的なアピール力を失ってしまうことに加えて、民族主義政党もイスラーム色を強めたことで、福祉正義党と他政党との違いが曖昧化してしまったのである。イスラーム系政党の得票率をすべて合わせると、98年と2004年総選挙ではともに約38%であったが、2009年には約29%に落ち込んでしまっており、社会のイスラーム化と政治の脱イスラーム化というパラドックスの現象が起きている。そのことからすれば、わずかでも得票率を上げることに成功した福祉正義党は健闘したといえるぐらいである。そこで本稿は、イスラームが当たり前となりつつあるインドネシア社会において、イスラーム政党がどのような選挙戦を繰り上げたのかについて、この福祉正義党に焦点を当ててみていくことにする。

## 1. 正義党、そして福祉正義党の台頭

福祉正義党の前身は、70年代から始まるイスラーム復興運動のもとで、エジプトのムスリム同胞団運動のモデルにならい、国内的には50年代に活躍したイスラーム政党、マシュミ党の影響を引き継いだダクワ（布教）運動にある。インドネシアにおけるその萌芽はイマドゥディンらがリーダー的役割を果たしたバンドン工科大学サルマン・モスクにおけるイスラーム運動である。クルアーンとハディースの忠実な解釈を重視するサラフィー主義の影響が強く、さまざまな土着文化と混交したイスラームを否定する動きであり、20世紀初頭のムハマディアの現代版という性格もあった。

アブディ・スマイティ（Abdi Sumaiti）（通称アブ・リダ Abu Ridha）、サルム・スガフ・アルジュフリ（Salim Segaf Al-Jufri）、ラフマット・アブドゥラー（Rahmat Abdullah）、ヒルミ・アミヌディン（Hilmi Aminuddin）などのイスラーム説教師が布教運動を推し進め、サルモン・モスクを中心としてインドネシア大学、ボゴール農科大学、ガジャマダ大学など有力大学に拡大していった。78年に大学内で政治運動がスハルト体制によって否定された結果、さらにこの運動は勢いを増した。タルビヤ運動（Gerakan Tarbiyah）と呼ばれるようになり、各地のキャンパス布教委員会（Lembaga Dakwah Kampus, LDK）を通じて広まり、LDKを結びつけるLDK友好フォーラム（Forum Silaturahmi, LDK）も作り上げられた。彼らはサラフィー主義の著作やムスリム同胞団の書物を中心として読む傾向が強かった。

このタルビヤ運動のメンバーの中には、スハルト大統領の退陣は2010年頃だと見込んで、その頃には彼らの幹部の中から政治指導者になりうるような人材を育てておくべきだと意見があった。その準備段階としてメンバーたちが学生部（BEM）のリーダーになる道を模索した。まず、94年にはズルキフリマンシャ（Zulkieflimansyah）がインドネシア大学の学生部長に就任することに成功した。そして、ジャカルタ、ボゴール、バンドン、ジョグジャカルタの有力大学の学生部を

手中にする努力を続けていった<sup>4)</sup>。

98年3月にはこのタルビヤ運動でつながれたネットワークは「インドネシア・ムスリム学生生活動連合」(Kesatuan Aksi Mahasiswa Muslim Indonesia, KAMMI)として制度化された。5月にスハルト体制が崩壊して、民主化が始まると、KAMMIメンバーの中からは同連合を政党にしようという動きが起きた。タルビヤ運動において支配的なイスラーム理解は、イスラーム教においては宗教と政治は不可分であって、政治的にイスラーム化を推進すべきであるとするイスラーム主義であり、その理解からすればこうした政党結成の動きは不思議ではなかった。政党を結成するかどうかについて、インドネシア全土にちらばる6000人のタルビヤ運動の活動家に対して、同運動が政治化することについて調査が行われた。回答者の27%のメンバーが社会宗教組織のままであることを望み、68%のメンバーは政党結成に賛成した。その結果、98年8月に福祉正義党の前身である正義党(Partai Keadilan)が発足した。

99年総選挙において正義党はイスラーム的倫理に基づく清廉な政治をアピールしたものの、主に都市部の中産階層の支持しか得ることができず、得票率は1.4%にとどまった。議席数で見ると、国会で7議席、インドネシア全州の議会で合計26議席、全県・市の議会で153議席を獲得した。選挙法の規定より、2%以下の得票率の政党は次の総選挙に参加できないことから、正義党は解散され、その後身として福祉正義党が発足した(以後、2004年までは正義党、それ以後は福祉正義党と呼ぶ)。

ムロビ(Murrobi)と呼ばれる1人の助言者の指導のもと、ウスロ(Usroh)、後のイフワン(Ikhwan)と呼ばれる5人から10人程度のグループ討論などを通じてイスラーム法(fiqih)やイスラームの真理(aqidah)を学んだものたちが党幹部となっていた。ヒルミ・アミヌディンなど年長の説教者たちは、政治的イスラーム運動が否定されていたスハルト時代のトラウマから解放されて積極的に運動を展開していく必要性を幹部たちに力説した[Hilmi Aminuddin 2007]。こうした論理に正義を見いだした幹部たちは、積極的に正義党支持派を増やしていった。少しずつ支持基盤が都市部から農村部にも広がっていった。これまでムハマディヤやナフダトゥール・ウラマー関係者が行っていたモスクの管理を正義党幹部が取って代わる動きも起きた。その過程では、タルビヤ運動出身者だけの幹部政党という印象を弱め、より穏健なイスラーム主義政党であることを強調し、開かれた包括的政党であり、他宗教にも寛容であると主張した。正義党はダクワ政党である以上、イスラーム化の推進は党の原理原則に近い。しかし、その方法はテロなどの暴力的手法や革命的手法ではなく、党員自身が理想的なムスリム像を提示して社会全体のイスラーム化を推進していくという穏健なものである。幹部養成のカリキュラムはタルビヤ運動の頃と変わらないという点で、こうした穏健さには胡散臭さが常につきまとう。また、サラフィー主義的傾向の強いムハマディヤやイスラーム統一連合(Persatuan Islam, Persis)などが批判していた土着文化である死者への儀礼(Tahlilan)、預言者ムハンマド生誕祭(Mauludan)、供食儀礼(Selamatan)、聖者廟参詣(Ziarah Kubur)に対して、正義党幹部たちも批判的であった。しかし、徐々に、こうした事項はイスラームの核心(ushul)ではなく、枝葉(furu')に関わることであり、最終的には改められることが望ましいけれども、完全に否定はしないという態度を鮮明にするようになった。加えて、イスラーム色を全面に打ち出すよりも、「反汚職のジハード(聖戦)」(Jihad Melawan Korupsi)を実践する政党として売り出し、アチェやジョグジャカルタでの地震の際のように、天災があれば真っ先に同党の旗を持って現場に駆けつけた。こうしたことが同党の支持拡大につながった。

4) ズルキフリマンシャ(福祉正義党国会議員)とのインタビュー、2007年2月11日。

さらに、正義党は、政治活動以外にも、さまざまな分野に進出していくことで支持母体を増やしていった。学習塾「ヌルル・フィクリ」(Nurul Fikri)、布教組織「ホリル・ウンマ」(Khoril Ummah)、イスラーム教育機関「アル・ヒクマ」(Al-Himah)、祈祷委員会「シディック」(Sidik)、文芸団体「ナシッド」(Nasyid)などが教育文化分野で誕生した。ラフマト・アブドゥラーが創刊したイスラーム雑誌「サビリ」(Sabili)は一時はインドネシア最大の部数を誇る雑誌にまで成長した。さらに、「アル・イシュラヒ・プレス」(Al-Ishlahy Press)、「グマ・インサニ・プレス」(Gema Insani Press)、「プスタカ・アル・カウサル」(Pustaka Al-Kautsar)、「ロバニ・プレス」(Robbani Press)、「イッテイショム」(I'tishom)、「エラ・インテルメディア」(Era Intermedia)、「アシ・シヤミル」(Asy-Syamil)など次々と出版社を設立させて、イスラーム関連の出版活動を行った。人道面では、「ムスリムのための正義の詰め所」(Pos Keadilan Peduli Umat)、「ウムル・クロ社会基金」(Dompot Sosial Ummul Quro)、赤十字のイスラーム版「インドネシア赤い三日月」(Bulan Sabit Merah Indonesia)などが作られた。女性組織では、「サリマ」(Salimah)、「正義の女性のための詰め所」(Pos Wanita Keadilan)が、経済面では、98年から「正義労働者組合」(Serikat Pekerja Keadilan)や「インドネシア・イスラーム法・協同組合」(Koperasi Syari'ah Indonesia)が存在している。同協同組合は「インドネシア・ムスリム実業家ネットワーク」(Jaringan Pengusaha Muslim Indonesia)や「インドネシア労働連合」(Indonesian Labour Foundation)を支援し、2003年には「インドネシア福祉農民・漁民連合」(Perhimpunan Petani Nelayan Sejahtera Indonesia)を発足させた。更には、「インドネシア改革研究所」(Center for Indonesia Reform, CIR)など様々なシンクタンクも作り上げ、学生組織としては、KAMMI以外にも「ガルダ・クアディラン」(Garda Keadilan)、中高生を対象とした「インドネシア・ムスリム学生生活動連合」(Kesatuan Aksi Pelajar Muslim Indonesia)、「アジア太平洋青年・学生財団」(Yayasan Pemuda dan Pelajar Asia Pasifik)などを作った [Imdadun 2008: 43-44]。

より開かれた穏健な政党としての福祉正義党というイメージを作り上げ、インドネシア社会の様々な分野において組織的活動を展開していった結果、表1にあるように、県・市支部は1999年には58% (1999年)の県・市に設けられ、2004年には全ての県・市に設けられた。郡支部は1999年には50% (1999年)の郡に設けられ、2004年には65%、2009年総選挙までに90%の郡に設けられた [Tim Pemenangan Pemilu Nasional (TPPN) PKS 2008: 19]。村・町レベルでは1999年の1500支所から2004年には9000支所、2009年には25000以上の支所が設けられた。そして、幹部の数も1999年総選挙時には35000人、2004年総選挙時には450000人、2009年には約850000人に急増した [TPPN PKS 2008]。

表1：福祉正義党支部数の変化

年	県・市レベル	郡レベル
1999	58	50
2000	82	35
2001	79	35
2002	86	51
2003	93	62
2004	100	65
2008	100	90

[出所：Yudi Latif *et al.* 2005; Tim Pemenangan Pemilu Nasional PKS 2008: 19]

福祉正義党が他のイスラーム系政党と決定的に異なるのはイスラーム社会組織、教育組織とのリンクである。たとえば、民族覚醒党 (Partai Kebangkitan Bangsa)、ナフダトゥール・ウラマー覚醒党 (Partai Kebangkitan Nahdlatul Ulama, PKNU) がナフダトゥール・ウラマーというイスラーム社会組織を基盤にしており、国民信託党 (Partai Amanat Nasional) がムハマディヤというイスラーム社会組織を基盤しているのに対して、正義党にはそうした明確

なイスラーム社会組織とのリンクはない [見市 2005: 184; Imdadun 2008: 150]。従って、どういった組織に所属していたのか、その組織での地位はどうであったのかということは福祉正義党内での昇進には関わりがなく、党員たちは、7段階に及ぶ同党の幹部育成システムに沿って昇進していった。ゴルカル、闘争民主党、民主主義者党、民族覚醒党などの政党では、党首との血縁関係、資金力、政治基盤などで党員が安易に幹部に取り立てられる傾向があるのとは大きく違っていた。そして、同党のこの忠誠度とパフォーマンス重視の昇進システムは敬虔なムスリム、とりわけムハマディヤやナフダトゥール・ウラマーの中でも周辺部にいるムスリムにとっては魅力的であったといえる。しかも、福祉正義党がイデオロギー的に穏健化するなかで、礼拝の仕方は党員個人にゆだねられ、ナフダトゥール・ウラマー系のイスラーム社会で育ったムスリムにとっては常識化している上述の死者への儀礼や供食儀礼も否定されなかった。たとえば、東ジャワ州支部では、ムハマディヤからもナフダトゥール・ウラマーからも幹部を輩出しており、対立は起きておらず、実際に礼拝の方法も個人に委ねられており、死者儀礼 (tahliran) も行っても問題ないという<sup>5) 6)</sup>。

## 2. 政界における正義党——イスラーム化と汚職撲滅

正義党はイスラーム主義政党であり、国会での政治もまたイスラーム布教の一環として捉えられている。興味深かったのは、「ジャカルタ憲章」(Piagam Jakarta) 挿入要求への同党の立場であった。この要求とは、45年憲法第29条第1項「国家は唯一神を基盤とする」という規定に、「ムスリムについてはイスラーム法を實踐する義務がある」(dengan kewajiban menjalankan syari'at Islam bagi pemeluk-pemeluknya) という一文を追加する要求を意味する。45年6月時点での憲法全文草案で含まれていたこの一文は、後にキリスト教徒など少数派への差別となりかねないことから削除された。その後、この前文は「ジャカルタ憲章」(Piagam Jakarta) と呼ばれている。スハルト権威主義体制が崩壊して民主化が始まると、イスラームを党原理とする開発統一党や月星党は同憲章を付け加えるよう求めた。FPI(イスラーム防衛戦線)、HTI(インドネシア解放党)、イスラーム布教協議会(DDII)などのイスラーム系社会組織も国会前でジャカルタ憲章の挿入を求めるデモを行った。

正義党の場合、開発統一党や月星党のように露骨にジャカルタ憲章挿入を求めれば急進派、過激派とのレッテル貼りをされることは確実であり、かといって、イスラーム政党としてジャカルタ憲章を否定することもできない。そこで、代替案として、「信者は各々が信ずる宗教を實踐する義務を有する」という文言の挿入を求めたのである。こうした姿勢からも、同党が穏健的、現実主義的、言い換えるならリスク回避志向が高い政党であることがわかる。国会での議席数はわずかに7議席であり、1会派を作るのに必要な10議席にも満たなかったこともあり、その後はイスラーム化を国政レベルで目立って推進することはなかった。

正義党が少数派ながら世間の注目を浴びたのはイスラーム化の推進であるより「反汚職のジハード」を實踐したことであった。正義党から政界に突如として進出した国会議員、地方議員はほぼ全員が政治に素人であり、「改革」の影響を受けて理想主義的傾向が強かったこともこうしたジハード

5) ムハマド・シロジ(福祉正義党東ジャワ州議会議員)とのインタビュー、2008年12月28日。シロジ自身はナフダトゥール・ウラマー系のプサントレンで教育を受けた後、断食を続けて呪力「内なる力」を身につけたものの、その力を試すために喧嘩を繰り返したことを反省して、その力を取り去ったという。その後、福祉正義党入りした。

6) (福祉) 正義党の進出が大学のキャンパスから広く社会全般に及ぶにつれて、既存のイスラーム社会組織からは福祉正義党の進出を阻止する動きが起きている。ムハマディヤは福祉正義党を含めた新たなイスラーム集団幹部によるムハマディヤ乗っ取り阻止を支持する通達を出し、ナフダトゥール・ウラマーは福祉正義党も含めた「トランスナショナルなイスラーム」の浸透を防ぐ運動を始めた。ナフダトゥール・ウラマーにとっては福祉正義党はインドネシアに根付いたイスラームを否定して中東のイスラームを正統だと主張するイスラーム主義者たちの政党とみなされている。

ドを展開できた理由であろう。アブドゥルラフマン・ワヒド政権の時代に林業大臣に就任した正義党党首ヌル・マフムディ・イスマイル (Nur Mahmudi Ismail) は就任してから10ヶ月の間に同省内の15に上る汚職を摘発して検察に取り調べを求めた。森林地帯の航空地図作成プログラムを巡る汚職事件では、スハルト体制時代に「森林王」(Raja Hutan)として栄華を誇っていた華人実業家ボブ・ハサン (Bob Hasan) が逮捕された。スハルトの三男トミー・スハルトやスハルトの義弟プロボ・ステジョが関与する汚職事件も検察にあげられた。しかし、検察側が取り調べを進めることはなかった<sup>7)</sup>。

地方議会で議員を務める正義党員たちも反汚職運動を進めた。西ジャワ州議会の正義党議員二名は、5億ルピアに上る「礼金」(Uang Kadeudeuh)を返済した。マグタン県の正義党員は、本来は後進村対策資金に回されるはずの予算が県会議員にばらまかれたため、自らに配られた100万ルピアを返済した。ベンクルー州議会の正義党議員は、一議員あたり210万ルピアの断食明け休日給付金を返済し、また、視察旅行費930万ルピアを無駄遣いであるとして返済した。ジャカルタ州議会の4名の正義党所属議員は、州知事ステイヨソが再選を目論んで配った5億ルピア (一議員あたり)の受取を拒否した [Imdadun 2008: 46-49]。

正義党は、組織強化、幹部育成強化と多様な分野への活動の展開、被災地への迅速な支援、反汚職キャンペーンなどを通じて政党としての基盤強化を着実に成し遂げていった<sup>8)</sup>。その結果、2004年総選挙では躍進することになった。

### 3. 2004年総選挙、そして地方首長直接選挙

正義党から名前を変えた福祉正義党は、全国レベルでは、1999年の1.4%から7.3%に得票率を大きく伸ばすことに成功した。議席数で見ると、国会での議席数は45、全州議会での議席数合計は157、全県・市議会での議席数合計は900となった。議席数を大きく伸ばしたのは主に都市部であり、ジャカルタでは得票率23%で第1党に上り詰めた。インドネシア大学のあるデポック市では27.5%、津波の被害を受けたバンダ・アチェ市では20.5%、バンドン工科大学のあるバンドン市では20.5%、南ハルマヘラ県では20%、メダン市では14%、パタム市では14%、パダン市では12%というように、高い得票率を示したのは、タルビヤ運動の拠点や福祉正義党が被災民救済に活躍した地域であった [Yudi Latief et al. 2005: 84]。農村部への支持基盤拡大も成果を見せており、たとえば、南カリマンタン州では州都バンジャルマシ市で第2党に躍進し、二県で第1党に上り詰めた。それは清廉潔白なイメージ戦略や組織化が奏功したことに加え、清廉な若手イスラーム指導者やムハンマドの子孫とされるハビーブの一人を国会議員候補に擁立して説教師として各地の講話会で講演させたからである [見市 2005: 191-196]。

2005年から始まった地方首長直接選挙においても福祉正義党は躍進を続けた。直接選挙になった結果、勝利の鍵はどの政党から推薦を受けたかではなく、候補者の知名度に依拠する傾向が強まった。当初、ゴルカルや闘争民主党は中央本部や支部での党内政治に基づいて候補者を選んだために予想外の敗北を喫する傾向があった一方で、福祉正義党は比較的高い勝率を上げた。2008年5

7) 2002年、トミー・スハルトは汚職ではなく最高裁判事殺害教唆により懲役15年の刑を受けた。

8) この間のタルビヤ運動の発展は、漸進主義、穏健主義を基調とするムスリム同胞団の創設者ハサン・バンナーの方法論に則っている。事務局長のアニス・マッタに従うなら、正義党に至るまでに四つの段階を経たことになる。まず、組織化の段階である。時間をかけて幹部を体系的に育成し、彼らからなる強靱な組織を作り上げる。次に、社会化の段階で、ダクワ活動の支持者を社会レベルでマスとして拡大する。続いて、制度の段階であり、社会、経済、文化、教育、政治など多様な分野で布教のためのさまざまな制度を作り上げ、また既存の制度である政府や軍隊にも参加していく。最終段階としては、国政への参画である [Anis Matta 2002: 3, 9-11]。

月までに福祉正義党は151の首長候補者を推薦し、91の首長選で勝利を取めた [Inilah.com 2008. 5. 26]。9つの首長選では福祉正義党単独推薦候補を担ぎ出し、デボック市長選やベンクルー州知事選など4つの首長選で勝利を取めることに成功した。州知事選に関する限り、福祉正義党が推薦した候補は、ベンクルー州、バンカ・ピリトゥン島嶼部州、リアウ州、北マルク州、西ジャワ州、北スマトラ州、東ジャワ州で勝利を取めている [Eriyanto 2007: 14-16]。

福祉正義党が首長選で比較的高い勝率を保ってきたのは、まず第1に同党の選挙マシンが首長選でも多くの場合、機能したことが理由としてあげられる。他の政党の場合、候補者が選挙資金を配分しなければ選挙マシンが機能しないことが一般的であるのに対して、福祉正義党の幹部や支持者たちは選挙運動もまた布教の一環と捉えており、必ずしも潤沢な選挙資金がなくても候補者への支持を求める運動を展開する傾向が強い。

次に、福祉正義党そのものの性格変容が理由としてあげられる。1999年から政治参加を始め、2004年の総選挙で躍進してユドヨノ政権の一翼を担うようになるにつれて、同党は漸進的にイスラーム化を進める穏健主義路線を強調しただけでなく、政治的現実路線を強め始め、幹部政党からゴルカルや闘争民主党とさして変わらない「普通の政党」化していった。他政党同様、有権者にとって魅力的な、人気取り政策を公約として掲げ、知名度も高い勝てる候補者を推薦する傾向が顕著になった。選挙キャンペーン中には、イスラーム国家樹立などを主張することは全くなく、誰にでも受け入れることができるようなグッド・ガバナンスの実現などを専ら主張するようになった。たとえば、西ジャワ州知事選においては、自党の幹部を州知事候補にしたものの、それだけでは勝てないと判断して、デデ・ユスフ (Dede Yusuf) を副知事候補に据えて勝利を取めた。デデ・ユスフは西ジャワ出身のボディビルダーであり、鎮痛剤「ボードレックス」(Bordrex) のテレビコマーシャルなどで、マッチョな俳優として有名な人物である。

政治的には合理的で正しい選択であるとしても、同党の綱領に照らせばイデオロギー的に整合性が危ういこうした政治的現実主義が卓越していくと、同党のイスラーム主義に対する不信感は弱まり、より広い有権者に支持基盤を広げる可能性は出てくる。しかし、この現実主義路線が行きすぎるとマイナスとなる可能性も強い。2007年8月に行われたジャカルタ州知事選においては、ゴルカルや闘争民主党など大政党も含めて20政党が現職副知事ファウジ・ボウォ (Fauzi Bowo) を州

知事候補として推薦する一方で、福祉正義党は単独で元警察高官アダン・ドロジャトゥン (Adang Dorajatun) を推薦した。アジア・バロメーターが2006年に行った世論調査の結果を示す表2を見れば明らかのように、インドネシアにおいて警察は政党に次いで信頼度の低い公的機関である。にもかかわらず、福祉正義党が元警察高官を候補者に擁立したのは、建前としてはジャカルタの警察を内部から改革するためである。しかし、実際には、アダンが140億ルピアとも1500億ルピアとも言われる選挙資金を提供したからだという [Fealy 2008:

表2: あなたは、ここにあげる機関や組織が、社会のためになるという点で、どの程度信頼できますか。(非常に信頼している・ある程度信頼している)

機関・組織名	%
中央政府	83
地方自治体	85
軍隊	85
法制度	75
警察	58
国会	64
政党	50

[出所: 猪口など 2007: 514-516]

65]<sup>9)</sup>。金の有無が候補者を支持するかどうかの決め手となりつつあるのである。

#### 4. 普通の政党としての福祉正義党——イデオロギーとしての穏健性と現実主義の混交

福祉正義党が党勢を急速に拡大していく中で、イデオロギーもより穏健化していった。パンチャシラを国家原理として譲らない多元主義者やナショナリストの中には、福祉正義党はインドネシアでイスラーム法の適用を行い、イスラーム国家樹立を目指す「隠れた思惑」(hidden agenda)を持っているという疑念が根強い。実際、2008年の党大会で党評議会議長(Ketua Majelis Syuro, PKS)に選ばれたヒルミ・アミヌディンは50年代のイスラーム国家樹立運動に関与したと言われているし、福祉正義党の文書でパンチャシラを国家原理として容認するという表現は見あたらず [Imdadun 2008: 124]、2009年総選挙に向けて2008年に新たに作成された党綱領でもイスラームを党イデオロギーとするとしている。しかし、2008年の党綱領では、「イスラーム法を適用するイスラーム国家でもイスラーム法を拒否する世俗国家でもなく、我々が望むインドネシア国家とは、合法的かつ民主的に、至高にして普遍的な人道主義的価値を有した宗教の教えを実現する国家であり、その結果として、イスラーム的市民社会(マシヤラカット・マダニ)(Masyarakat Madani)が生まれることを望む」とあり、イスラーム国家樹立は目的とされていない [PKS 2008a: 28]。イスラーム的市民社会とは、預言者ムハンマドがメッカに作り上げた都市国家を原型とするもので、宗教的価値、規範、法律、そしてモラルに裏打ちされた、優れて進歩的かつ教養に富んだ社会であり、多元性、開かれた民主的態度を尊重し、国家主権を皆で尊重する社会である。インドネシアの現状に照らせば、イスラーム的市民社会はインドネシアという国民国家の枠組みの中で達成されるべきであると党綱領では述べられている [PKS 2008b: 1]。

国会で福祉正義党会派の副会長を務めるズルキフリマンシャの説明に従うなら、上記の福祉正義党の主張のポイントは、福祉正義党は、仮に選挙で勝利して政権を取ったとしても、現在のインドネシアという国民国家を国家の最終形態と捉えており、この国民国家を改変することを強制しないし、多様な社会であるインドネシアに対してイスラーム法の適用を強制することもない<sup>10)</sup>。その意味で、福祉正義党は、他の政党と何ら変わりのない「普通の政党」であるというのがズルキフリマンシャの主張である<sup>11)</sup>。

そもそも、福祉正義党の社会変革、政治変革の方法論は、段階論(tadaru)であって、革命的手法ではない。「すべてのイスラームの体系の基礎にあるのは、段階的展開であり、均衡である」というのが福祉正義党のイスラーム理解である [Imdadun 2008: 134]。従って、2004年の大統領直接選挙において福祉正義党も推薦したスシロ・バンバン・ユドヨノが大統領に当選すると、積極的に政権与党となり、燃料値上げなど貧困層を無視したユドヨノ大統領の政策にも従いつつ、イスラームの価値観や倫理に関わることについては積極的に立場を明らかにして、少しずつ政権を中道から中道右派へと変更させていった。たとえば、預言者ムハンマドの後にも預言者の存在を認める宗教

9) 州知事選は、ファウジ・ボウォンの得票率57.8%、アダンの得票率42.2%でファウジが勝利を取めた。ファウジを支持した20政党の2004年選挙での得票率合計が75.8%で、福祉正義党の得票率が23%であったことからすると、アダンは善戦したといえる。この善戦の理由は、1つには、20政党対1政党の選挙戦ということでアダンに同情票が流れたからである。2つめに、2004年に福祉正義党に投票した有権者の82.8%がアダンに投票したことに見られるように、同党が劣勢に立たされたことで同党の幹部や支持派は警察官僚を支持することに不満を持ちつつも、積極的に選挙キャンペーンを展開したからである。ジャカルタ州知事選の分析については、LSIの報告書などを参照 [Eriyanto 2007; Fealey 2008: 65]。

10) <http://www.zulkiefimansyah.com/in/pks-tidak-akan-paksakan-syariat-islam.html> (2008年8月10日20時37分閲覧)

11) ズルキフリマンシャとのインタビュー。2005年2月5日。もちろん、後述するように、福祉正義党内にも多様な立場が存在しており、ズルキフリマンシャの立場が完全に支持を得ているわけではない。

組織アフマディヤがイスラーム組織か否かが問題になったときには、アフマディヤがイスラーム規範に反する教義を広めることを禁じさせる決定を出させることに成功したし、2008年にはイスラーム勢力の影響で生まれた反ボルノ法の成立を支持した<sup>12)</sup>。

2009年総選挙において2400万票の支持を獲得して国会で20%以上の議席を占めることを目的としていたことから [PKS 2008b: vii]、イスラーム的倫理の重要性は主張しつつ、他の側面ではエリート主義的、イスラーム主義的、都市中産階層志向な政党というイメージをこれまで以上に払拭して大衆政党化する必要性が高まった。70年代以降の社会のイスラーム化の影響もあって、民族主義政党と思われていた政党でさえ、イスラーム色を強めており、福祉正義党が相変わらずイスラーム主義を強調してもそれは政治的メリットにはならない可能性が高まってきていた。たとえば、闘争民主党は2004年大統領選挙のときには大統領候補であった党首メガワティは頭にスカーフを巻いて敬虔なムスリム票の取り込みを図ったし、2009年選挙に向けて2006年にはイスラーム対策を担う「ムスリムの家」(Baitul Muslim)を設置して敬虔なムスリム票をより確実に取り込もうとした。また、ユドヨノ大統領率いる民主党は、選挙キャンペーンでは、「中道政党、宗教政党、全社会層の政党、若者の政党、女性の政党」というメッセージをぶち上げ、包括政党性とともにもイスラーム政党であることも強調し始めていた。こうした状況下で2400万票を獲得しようとするれば、福祉正義党も敬虔な都市部のムスリム票だけでは不十分であり、農村部での支持拡大をねらうことが至上命題となり、貧困削減対策なども重視する必要が生まれた。2007年に新たに選ばれた同党の執行部議長ティファトゥル・スンピリン (Tifatul Sembiring) は、次のように新たな地方首長によるポピュリスト的政策の重要性を強調している。「(新たな地方首長たちが)最初にすべきことは、ポピュリスト的なものになるだろう。一般住民は、長年望んできた変化の証拠を確実に要求しているからである。多くの住民は、栄養不足、浮腫、小児麻痺、苦痛、高い石油などに苦しんでいる。新しい地方首長は、こうした住民を落ち着かせ、なだめる必要がある」[Tifatul Sembiring 2007: 9]。

2004年以後のこうした福祉正義党の変容を典型的に示す二つの出来事を紹介しよう。一つめは政党体操、二つめはテレビ広告である。

### (1) 政党体操

福祉正義党にはスポーツ部門があり、恐らく現在のインドネシアの政党の中では唯一と思われる政党体操を作ってきた。最初の体操は、「新精神のための体操」(Senam Ruhul Jadid) という物々しいタイトルの体操であった。VCDも作られており、そのVCDでは三名の男性インストラクターたちが黒い上下を着て体操をしている。背景の音楽は中東イスラームの影響を受けてショウトゥル・ハロカ (Shoutul Harokah) と呼ばれる楽器なしのアカベラである。男性インストラクターたちは真剣にシャープな動きで体操を行っており、ある種の軍事教練を思わせる。しかも、背後にはときおり稲妻が走る。あまりに戦闘的な体操であるためか、スポーツ部は新たに「スポーツ体操」(Senam DORA) を作り上げた。この体操も基本的には中東イスラーム的なアカベラを背景にしており、西洋のエアロビクスのような気軽さに欠けている。その反省をふまえて、スポーツ

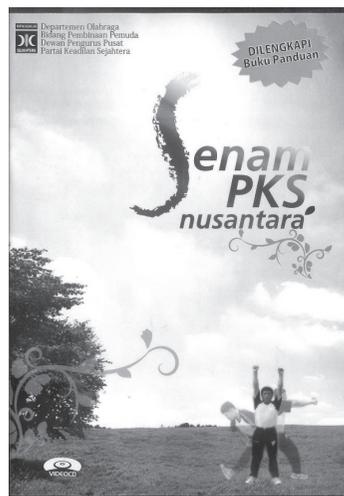


写真1: 福祉正義党体操 VCD

12) 反ボルノ法については [Abdur Rozaki 2010]。

部は2005年に「インドネシア・福祉正義党体操」(Senam PKS Nusantara) (写真1参照)を作り上げた[PKS 2005]。この体操が生まれた理由は、ユドヨノ政権下で青年・スポーツ担当大臣に就任した同党幹部のアディヤクサ・ドルト (Adhiyaksa Dault) があまりイスラーム的でなく、インドネシア化された体操を作るように要請したからである。その結果、これまでとは大幅に異なる「インドネシア・福祉正義党体操」が生まれた。背景に流れる音楽は、楽器付きでインドネシア各地の地方音楽が使われ、アカベラではなくなった。六人のインストラクターたちはすべて男性であるとはいえ、赤、白、黒など多様なジャージを着ており、体操も日本でもよく見られるエアロビクスのような性格が極めて強くなった。一般の人にも親しみを持ってもらうために、2人一組となって両手をたたき合う子供の遊び「せっせっせ」のような動作や一列に並んで「汽車ぽっぽ」のような動作まで取り入れた。この体操を社会活動の一環で普及することを通じて、楽しみながら正義福祉党になじんでもらう努力を行った。

## (2) テレビ広告

2008年9月9日から11日にかけて福祉正義党はテレビ広告を大々的に行った。ナフダトゥール・ウラマー幹部サラフディン・ワヒド (Salahuddin Wahid) の息子で福祉正義党に共感を抱くイバン・ワヒド (Ipang Wahid) の広告代理店「ファーストコム」(Fastcomm) に福祉正義党が発注したものである。この広告は、国民英雄記念日を祝う目的で作られられており、予算は10億ルピアであった<sup>13)</sup>。最も議論を呼んだのは、国民の教師 (Guru Bangsa)、英雄 (Pahlawan) として八人の歴史的人物をとりあげ、彼らが歩んできた道を福祉正義党と共に前進させようと訴えているなかで、スハルトも国民の教師、英雄として含めたことであった<sup>14)</sup>。11月9日には、「国民英雄一族の子供たちの集会と対話」(Silaturahmi dan Dialog antar Anak Keluarga Pahlawan Nasional) と称する夕食会をジャカルタ・コンベンション・センターで開き、スハルト一族からはスハルト四女、ティティック・スハルト (Titiek Suharto) が出席した。ティティックは福祉正義党がスハルトを国民の教師、英雄として認めたことに感謝を表明した。ティファトゥールは、「この会は(世代間の)和解をめざし、世代間の憎悪をなくすために企画した」と述べて、スハルト一族を招聘したことを正当化している [Tempo 2008. 11. 24: 32]。本音のところは、農村部を中心としてスハルト時代を懐かしむ声を取り込むことで福祉正義党が進出しきれていない農村部の票を2009年総選挙で獲得しようとしていたことは間違いない。しかし、当然のことながら、都市部の支持者からは党発足の動機を否定するものだという強い非難の声が上がった。改革の時代にはスハルト体制を厳しく批判し続けたインドネシア科学院 (Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia, LIPI) の政治学研究所役員モフタル・パボティング (Mochtar Pabotinggi) は、福祉正義党 (Partai Keadilan Sejahtera, PKS) の PKS は Partai Kroni Suharto (スハルトのクローニーの政党) であると携帯メッセージで友人たちに福祉正義党批判を行った [Tribun Timur 2008.12.18]。さらに、福祉正義党はスハルト一族から資金的援助を受けてい

13) イバン・ワヒドが福祉正義党に共感を抱いていたにせよ、あくまでも広告作りはファーストコムのビジネスの一つである。実際、ファーストコムは国民信託党の党首ストリスノ・バヒル (Sutrisno Bachir)、開発統一党、民族覚醒党のテレビ広告を2009年4月の総選挙向けに作り、さらに7月の大統領選に際しては、PKSの支持するユドヨノではなく、ゴルカル党のユスフ・カラ大統領候補のためのテレビ広告を作った。こうした候補者、政党をテレビなどで宣伝する選挙ビジネスは、2004年大統領直接選挙以来、活況を呈しており、ホットライン、チャペラウィット (Cabe Rawit) などインドネシア国内のさまざまな広告会社が利潤を求めて参入してきている。民主化後の選挙広告ビジネスの活況については、[岡本 2009]。

14) 他の七人は、スカルノ (Sukarno)、KH・アフマド・ダーラン (KH. Ahmad Dahlan)、KH・ハシム・アシャリ (KH. Hasyim Asy'ari)、M・ナツシル (M. Natsir)、ハッタ (Hatta)、スディルマン将軍 (Jenderal Sudirman)、ブン・トモ (Bung Tomo) である。ムハマディヤやナフダトゥール・ウラマーからは、創始者が福祉正義党の宣伝に使われたことに対して不満が挙がった。

るとの噂が再び広がった<sup>15)</sup>。

イスラーム色を一層弱め、スハルトをも再評価することでイスラーム主義者以外の票を積極的に集めようという露骨なまでの政治戦略については、当然のことながら党内でも不満の声が上がった。スハルトのテレビ広告を巡っては、福祉正義党党内の二派、福祉派 (Kubu Kesejahteraan) と正義派 (Kubu Keadilan) の立場の違いが鮮明となった。正義党の頃から事務局長を務め、選対委員長でもあるアニス・マッタに代表される福祉派は、同党の政治力拡大のために現実主義的かつ機会主義的立場を取ることも辞さない派閥であり、2004年選挙の党勢拡大により同党内での影響力も伸張させてきている。福祉派がイスラーム色を弱め、包括政党化して2009年選挙で20%の議席獲得のために邁進した。ムロビの祖父 (grandfather of murrobi) とも呼ばれ、党内で強い影響力を持つヒルミ・アミヌディンがアニス・マッタに立場が近いことから福祉派の影響力が強くなっている [Monitor 2009]。一方の正義派は、政治的にはイスラーム主義政党、布教政党としての性格の保持を図るという点で保守的であり、当然ながら同党内で福祉派が台頭してきていることには批判的である。

この二派の見解の相違は、2009年総選挙を控えた同党の綱領作成の段階でも表面化していた。福祉正義党のそれまでのモットー「清廉かつ配慮」(Bersih dan Peduli) の変更が議論となった。福祉派は、マネージメント能力や戦略思考の重要性を強調するために「プロフェッショナル」(Profesional) という言葉を付け加えるように主張した。そうすることで、イデオロギー的には必ずしもイスラーム主義的ではないが「プロフェッショナルな」官僚や政治家を党推薦候補として擁立する道筋をつけやすくすることを狙っていたのかもしれない。一方、正義派は、地道にイスラーム教の布教を続けることの重要性を強調する意味も込めて、「素朴」(Sederhana) という言葉を付け加えることを求めた。最終的には、福祉派の主張が通って2009年総選挙を控えた同党のモットーは「清廉、配慮、そしてプロフェッショナル」となった [Tribun Timur 2008.12.18]。

福祉派の要求でスハルトのテレビ広告を制作することが決まったときにも、正義派や諮問委員会のなかからは反対の声が上がり、党首のティファトゥル・スンビリン自身、テレビ広告が引き起こした論争をふまえて、「警鐘を鳴らしていたように、この広告は議論を呼んでしまう。我々の〔改革のときの〕デモンストレーションの狙いはスハルトではなかったのか?」と述べている。しかし、こうした現実主義路線、機会主義路線というのは中央執行部のトレンドだけではない。むしろ、地方でこそイデオロギーの意味合いは薄れていき、福祉正義党の地方執行部は選挙戦で勝つための現実主義路線、機会主義路線に邁進していくことになった。それは、バンテン州の福祉正義党で典型的に現れた。次に、バンテン州における福祉正義党の台頭と政治的アクロバットについて見ていく。

## 5. バンテン州の福祉正義党——台頭からアクロバットへ

バンテン州は2000年に西ジャワ州から分離してできた州である (図1)。スダ人が西ジャワ州の政治と行政を牛耳っていることに不満を抱いていたバンテン人が、彼らの人口が比較的多い県・市をまとめ上げて作り上げた州である。バンテン州は産業的に発展しているセラン県、チレゴン市がある北西部、農村地帯で貧困層の多いルバック県、パンデグララン県がある南部、ジャカルタ近郊に位置して多様なエスニシティ構成からなる工場地帯のタンゲラン県・市がある北東部の三つに分

15) 福祉正義党党员の間では、この広告のおかげでテレビのニュース番組、討論番組、新聞や雑誌で同党にまつわる議論が盛り上がり、広告費以外のコストをかけずに同党の認知度を高めることに成功したという意見が多い。確かに、選挙が近づくなかで、日々の生活に追われて政治から関心を逸らしがちな大半の有権者が同党を再び思い出す上で効果はあったかもしれない。



図1：バンテン州

表3：エスニック・グループの県・市別人口と割合(2000年)

	バンテン人	スダダ人	ジャワ人	ブタウィ人	華人	バタック人	ミナンカバウ人	ムラユ人	その他	総計
セラン県	1,428,515	89,196	92,679	10,713	392	4,795	7,780	4,426	14,237	1,652,733
チレゴン市	183,117	25,795	52,626	3,054	819	3,869	4,539	3,104	17,783	294,706
バンデグララン県	694,068	249,741	12,856	2,993	131	530	2,359	460	48,516	1,011,654
ルバック県	936,514	47,558	9,161	3,151	222	688	3,381	1,317	27,888	1,029,880
タンゲラン県	414,760	1,161,853	447,791	422,256	44,933	36,223	26,629	28,347	192,240	2,775,032
タンゲラン市	128,951	256,830	371,033	335,236	43,556	29,416	20,593	20,406	109,912	1,315,933
バンテン州	3,785,925	1,830,973	986,146	777,403	90,053	75,521	65,281	58,060	410,576	8,079,938

	バンテン人	スダダ人	ジャワ人	ブタウィ人	華人	バタック人	ミナンカバウ人	ムラユ人	その他
セラン県	86.43%	5.40%	5.61%	0.65%	0.02%	0.29%	0.47%	0.27%	0.86%
チレゴン市	62.14%	8.75%	17.86%	1.04%	0.28%	1.31%	1.54%	1.05%	6.03%
バンデグララン県	68.61%	24.69%	1.27%	0.30%	0.01%	0.05%	0.23%	0.05%	4.80%
ルバック県	90.93%	4.62%	0.89%	0.31%	0.02%	0.07%	0.33%	0.13%	2.71%
タンゲラン県	14.95%	41.87%	16.14%	15.22%	1.62%	1.31%	0.96%	1.02%	6.93%
タンゲラン市	9.80%	19.52%	28.20%	25.48%	3.31%	2.24%	1.56%	1.55%	8.35%
バンテン州	46.86%	22.66%	12.20%	9.62%	1.11%	0.93%	0.81%	0.72%	5.08%

[出所：BPS 2001a: 75]

けることができる。各県・市のエスニシティ構成は表3のとおりである。政治的中心は州都のあるセラン県であり、バンテン州設立後に政治経済的に強い影響力を持ってきたのは、セランに拠点を置く実業家兼暴力集団の総裁であるハサン・ソヒブ、彼の率いるラウ・グループであった<sup>16)</sup>。ハ

16) ハサン・ソヒブ、ラウ・グループの政治経済的影響力の強さについては、[岡本 2001; 2005; 2006; Okamoto and Hamid 2008]。

表4：(福祉)正義党の県・市別得票率  
(99年、2004年総選挙)

	1999	2004
タンゲラン県	2.79	50
タンゲラン市	3.82	35
チレゴン市	3.15	35
セラン県	2.83	51
パンデゲラン県	93	62
ルバック県	100	90

[出所：KPU ホームページなど]

のナクレンなどが思い浮かぶ。ただ、ジャワラに特徴的なのは、彼らが古い来歴を持ち、その拳術・呪術ゆえに文化的・社会的に広く認知されているということである。ハサン・ソヒブは、公共事業の配分を一手に引き受け、事業予算の一部をピンハネする仕組みを作り上げた。その影響力の大きさから、いつしか彼は州知事を統制する「州総督」と呼ばれるようになった。そして、彼やアトゥットだけでなく、妻や娘婿、アトゥット以外の子供も政界、経済界で幅をきかせ始めた。

19世紀以降、バンテン地方で政治秩序が動揺したときにはこのジャワラたちがイスラーム的権威ウラマーと並んで政治的リーダーシップを発揮してきた。ウラマーたちはこの新州設立に際してまったく政治的意味をなさなかった。ウラマー作業部隊の長にハサン・ソヒブが就任したことに象徴されるように、むしろジャワラの後塵を拝するようにさえなった。宗教的価値観に依拠して社会的正義を標榜するはずのウラマーが政治的に無力化する中で、正義党/福祉正義党が主張する「清廉かつ配慮」という社会的正義の主張は有権者の間で強いメッセージ性を持つことになった。

おおよそ、バンテン地方における正義党/福祉正義党の発展は全国的な展開と同じである。1999年総選挙ではバンテン全域で2.6%の得票率を獲得した。県・市別(福祉)正義党の99年、2004年総選挙での得票率を示した表4を見れば分かるように、その支持基盤は主にタンゲラン地方、チレゴン市など都市部であった。その後、イスラームの倫理に基づく清廉な政治の実現を訴え、2003年の洪水時には迅速に救済に駆けつけた。タンゲラン市などではムハマディヤを母体とする国民信託党の市部長や事務局長を福祉正義党に転党させることに成功した [HB 2004.3.23a]。さらに、「福祉正義拳術家前線」(Barisan Pendekar Keadilan Sejahtera) と呼ばれるジャワラ組織まで作り上げて、ハサン・ソヒブを必ずしも快く思わないジャワラたちを取り込みさえした。2004年3月にはルバック県でも有数のジャワラであるアピ・ジュリ (Api Juli) も参加した [HB 2004.3.23b]<sup>17)</sup>。また、次項で述べるように、ラウ・グループへの批判的スタンスも福祉正義党に対する期待を高めた。2004年選挙キャンペーンでは、イスラーム色を必ずしも打ち出さずに、国民モラルの向上、汚職・癒着・縁故主義 (KKN) の排除、教育費の無料化と高い教育水準という三つのプログラムをアピールしていった [HB 2004.4.1]。

4月6日の投票日が終わり、票の集計が始まると、福祉正義党からは投票操作への不満があがった。投票所レベルで福祉正義党が把握した同党得票数より村や郡レベルの集計段階での同党得票数が低

17) アピ・ジュリとは、殺人罪で収監されたことのあるジャワラであり、冷血漢 (Berdarah dingin) であるともいう。バタム島の企業に雇われて労働争議つぶしに関わったこともあり、何らかの社会的正義実現のためにこの拳術家前線に加わったとは思えない。

サン・ソヒブは、ジャワラの代表的人物であり、娘のアトゥットを初代副州知事、州知事代行、そして二代目州知事に据えることに成功している。ジャワラとは、こうした国軍・警察というフォーマルな暴力装置とは全く別個の、つまりインフォーマルな存在でありながらも拳術と呪術を武器にして脅しと暴力で利権を獲得し、国軍・警察にさまざまな便宜提供をはかることでその社会的存続を認められている存在である。ジャワラを他地域との類比で考えてみると、ジャワのジャゴ、日本のヤクザ、タイ

いという事態が各地で起きたからである。それでも、11.9%に得票率を躍進させ、バンテン州議会においてはゴルカル党の16議席に次ぐ11議席を有する第2党に上り詰め、タンゲラン市では第1党、タンゲラン県では第3党となった。表4に明らかなように、相変わらず福祉正義党は都市部で票数を稼いでいる。ただし、この都市部での強さは、中産階層の支持だけに依拠している訳ではない。より重要なことは、労働者階級の票が福祉正義党に流れた点である。福祉正義党は、経営者側との闘争を通じて労働者階級の権利実現を図る左翼、新左翼とは違って、イスラームの教義をふまえ、労使協調路線を通じた労働者の権利保護の実現に努めてきた。2004年当時、バンテン州党支部長を務めていたKH・アフマド・サドリ・カリム (KH. Ahmad Sadeli Karim) は、90年代初頭からアブ・リド (Abu Ridho) やヤフヤらと共に「アル・イザー委員会」(Lembaga Al-Izzaah) と呼ばれる組織を作り、チレゴン市で働く労働者たちに助言をし、説教を行ってきていた。2001年5月1日メデーには、この委員会を「福祉バンテン労働者友好協会」(Persaudaraan Buruh Banten Sejahtera, PB2S) に組織替えして、労働者向けの組織であることを一層鮮明にした。インドネシア大学経済学部を卒業したアグス・プジ・ラハルジョ (Agus Puji Rahardjo) がこのPB2Sを率い、バンテンの主な工場地帯で強い影響力を持った [Saksi 2004: 54-56, 58-60]。PB2Sがバンテン方面の組織であるのに対して、全国組織として「正義労働者組合」(Serikat Pekerja Keadilan, SPK) もあり、バンテン州支部も設置された。支部長に就いたのは日系企業で働いていた労働者のアリフ・キルディアット (Arif Kirdiat) であった。正義党系の雑誌「サビリ」などの熱心な読者は労働者であった。こうした組織化を行った結果、2004年選挙で少なくとも10人の労組活動家たちが福祉正義党の候補者としてバンテン州から立候補した。そのことも福祉正義党の躍進につながった<sup>18)</sup>。

## 6. 素人政治家たちの議会政治

それでは、(福祉)正義党選出の州議会議員たちはいったいどのように州政にアプローチしたのであろうか。1999年総選挙で州議会議員に選出されたのは、ヤヤット・スハルトノ (Yayat Suhartono) とアデ・マルフディン (Ade Marfudin) の2名である。州議会で1つの会派を構成するのに必要な人数が議員総数の1割であることから、イデオロギー的に近い国民信託党議員6名と月星党議員1名を加えて9名でABK会派を作り上げた。ABKのAはAmanat(信託)、BはBulan(月)、KはKeadilan(正義)から頭文字を取ったものである。ヤヤ・スハルトノを筆頭として、ABK会派議員は当然のことながら議会政治に参加するのも初めてであれば、政治活動そのものにさえそれまで関わってきたことがあまりない者たちである。しかしながら、あるいはそれゆえに、改革の申し子として、清廉な政治の実現をするという理想主義があり、州行政、そしてラウ・グループに対して批判的立場を明確にした。ABK会派副議長となったヤヤ・スハルトノらは、ラウ・グループによる入札なしの公共工事受注と分配、非公式の請負料の存在を問題視して、「プロジェクトたかり」(Premanisme Proyek) と呼び、その是正を求めた。

ABK会派議長は、州知事による2003年度補正予算報告への答弁の中で次のように述べた。

我々はバンテン社会の方々に謝意を表したい。というのも、「プロジェクトたかり」について、

18) 2004年選挙までは、福祉正義党は男性の活動家たちを通じて労働者の組織化を行うにとどまっておき、繊維工場などで働く女性労働者を組織化できるような女性活動家がない点が同党の弱点であった [Saksi 2004: 60]。最近では、福祉正義党が労働者を自ら組織化するよりも、既存の労働組合の幹部を福祉正義党の支持者にしたり、労働者たちが通うモスクの説経で福祉正義党の理念を説いて支持者にしたりするような方針に変更しつつあるという——アリフ・キルディアットとのインタビュー (2009年4月1日)。

我々皆が同じ考えを持っているからである。この忌まわしい慣行を根絶しない限り、我々の愛すべき州の開発を望むように進めることは不可能である。このプロジェクトたかりといった態度が存続する限り、我々の愛すべき州の開発のためにどれだけ多くの予算が割り当てられようとも、結果が目標に到達することはないであろう。バンテンの人々は、真の意味での進歩と繁栄を享受することはないであろう。

このプロジェクトたかりは「汚職、癒着、縁故主義」(KKN)の一形態であり、この改革の時代にあっては、その撲滅は最優先事項とせねばならない。当事者すべてが真摯にかつ勇気をもって取り組めばこの卑劣な慣行を完全に排除できる。[Syarif Hidayat 2007: 221]

「プロジェクトたかり」と言うとき、ABK 会派は明確にハサン・ソヒブを名指して批判しなかった。しかし、誰でもその批判の矛先はハサン・ソヒブであることが分かった。そして、ハサン・ソヒブ自身もすぐに反応した。2003年9月3日、彼は50人のバンテンの「実業家たち」とともにバンテン州議会に詰めかけて、州議会議員、とりわけ ABK 会派議員との対話を要求した。彼らは、ABK 会派に対して、「プロジェクトたかり」の具体的証拠を提示するよう求めると同時に、どの実業家がそのたかりに関与しているのかを示すように求めた。そして、バンテンの実業家たちとバンテン社会を不安に陥れたとして、ABK 会派に対する前言の撤回と全地方紙への公式の謝罪の掲載を求めた [Syarif Hidayat 2007: 222]。このハサン・ソヒブとの緊張するキャッチボールにあって ABK 会派の中で前面に出たのは正義党員のヤヤット・スハルトノであった。そのため、ヤヤットは家でも州議会でも脅迫を受けた。ABK 会派は公式に謝罪を表明することはなく、うやむやのまま終わった。正義党にすれば、ラウ・グループと対峙することで同党の清廉さをアピールすることができ、2004年選挙で得票率を大きく延ばす要因ともなった。

他にも、ジョコ州知事が汚職で逮捕されるきっかけとなった議員宿舍予算配分に関し、ABK 会派にいる福祉正義党議員ヤヤットとアデ・マルフディンはそうした配分は不要だとして、いち早く2003年10月末に各々1億ルピアをバンテン州政府の出納係に返済することで清廉さをアピールした [Kompas 2003. 12. 6]。

## 7. 現実主義路線へ

### (1) セラン県知事選と県行政

福祉正義党は、2004年選挙で第2党となり、州議会で11議席を獲得して単一会派を作るまでになった。そしてカリムが州議会副議長職、ヤヤが第2委員会事務局長職に就き、アグス・プジ・ラハルジョは州予算審議で極めて重要なポスト、予算委員会 (Panitia Anggaran) 委員長に就任するまでになった。1999年から2004年の間は、同党の議員はわずか2名で他の議員との距離を置いていた。しかし、11人もいて議会で要職を占めるようになれば議会内政治に本格的に入らざるを得なくなる。また、メディアを通じて州政の汚職を表立って批判してラウ・グループなどから強い反発を受けるだけでは、政治的孤立 (Isolasi Politik) にしかつながらず、結局のところ、州政の改革には取り組めないという意識も芽生えた<sup>19)</sup>。実際、アトゥット州知事代行を州議会で喚問するような動きを見せるなど批判的な態度をとり続けたことから州議会で孤立気味となり、2006年の各院内委員会の選出に当たっては第2党でありながら同党からは誰一人として選出されないという事態も起

19) イルフアン・マウリディ (Irfan Maulidi) (福祉正義党バンテン州支部長 (当時) とのインタビュー (2008年8月11日)。

きた [RB 2006.4.26]。こうしたことから、ラウ・グループが政治経済的に影響力を持つことを客観的に認める必要があるとの現実主義的理解が芽生えたといえる。そして、ラウ・グループとの連立に至る大きな契機となったのは、2005年6月に行われたセラン県知事選と翌年11月に行われたバンテン州知事選であった。

セラン県知事選では、ラウ・グループは現職県知事でゴルカル党県支部長の元官僚ブンヤミンを推した。そして、副知事候補には、出馬のために早期退役したマウラナ・ユスフ地方軍管区 (Kodim) 司令官マクムン・シャフロニ少佐を担ぎ出した。国軍との協調関係を重視するラウ・グループからすれば理解しうる副知事候補であった。マクムンは、イスラーム高等教育機関 (IAIN) 卒業生であり、イスラームの素養も深く、軍管区司令官の前にはシリワンギ師団広報担当局長として説教も行っていたから知名度はあった。

一方、ブンヤミンがラウ・グループ寄りであることに不満を抱いていた現職副知事ヌリマンは自ら県知事候補として立候補し、民主主義者党に加えて福祉正義党も推薦した。かつて2002年6月には、ヌリマンは、ラウ・グループに対抗するために、「バンテン社会協議会」(M3B) を発足させてバンテンのエリートをいったんは結集させることに成功したものの、その動きを継続・拡大させることには失敗していた。そこで、県知事になることでラウ・グループに対抗することを狙ったといえる。セラン陸軍諜報局のディディ・スナルディ中佐 (現役) も県知事選に出馬したことやハサン・ソヒブの部下がセラン県の中心市場であるラウ市場で陸軍特殊部隊員によって真っ裸にされた事件 (2004年) に象徴されるように、国軍内部でもラウ・グループが政治経済的覇権を握り続けることに対して反感を持つ者はいた。加えて、ヌリマンはかつてバンテン社会協議会に集ったバンテンのエリートを再び結集させることができる可能性があった。

セラン県はバンテン州の州都であり、ラウ・グループも県知事選に勝利するために全力を注いだ。2004年選挙で7%以上の得票率だった闘争民主党、開発統一党、国民信託党などが独自候補を擁立したこと、ブンヤミンはゴルカルと2004年総選挙で2%弱の得票率を獲得したイスラーム系小政党インドネシア信徒連盟統一党 (Partai Persatuan Nahdlatul Ummah Indonesia, PPNU) という二政党からの推薦で出馬した。ラウ・グループは官僚ネットワーク、商工会議所を中心とする実業界ネットワーク、そしてジャワラのネットワークを駆使して選挙戦を展開した。そして、選挙キャンペーン最終日にはハサン・ソヒブ自らセラン県庁舎前広場 (Alun-Alun) に出向いてブンヤミンの支持を訴えた。

一方のヌリマンは、福祉正義党の統制のとれた集票マシンとラウ・グループに反感を抱きながらも表立って反対できない一般住民を味方につけることに成功した。そして、6月の県知事選では、ヌリマン＝スジャヤ組が約41%の得票率で勝利を収めた。ブンヤミン＝マクムン組が約40%の得票率であり、票差はわずか1万票あまりであったからヌリマンの僅差の勝利であった<sup>20)</sup>。ハサン・ソヒブ自らが選挙キャンペーン最終日に登場したことがヌリマンの勝利につながったという噂さえ流れた。

では、県知事に就任したヌリマンは県政改革を推進してラウ・グループの影響力の排除に成功したであろうか。一言で言えば否である。バンテン州の州都セラン県はラウ・グループの拠点であり、社会経済的には圧倒的にラウ・グループが優位にあり、官僚にも「ブンヤミン系の人物たち」 [RB 2006.2.10] がいるため、仮に県知事が反ラウ・グループの人物であったとしても、その優位を打ち崩すには至らなかった。県商工会議所の会頭がハサン・ソヒブの娘リリス・カルヤワティ

20) 他にも三組の候補が正副県知事選に出馬した。しかし、得票率は二組が約8%、残る一組が約4%でしかなかった。

(Lilis Karyawati) であることに象徴されるように、県の公共事業を進めようとすればラウ・グループの影響抜きに実施することは不可能であった。また、国軍という官僚組織で昇進してきたヌリマンは組織の人間であって、県政改革推進という主張は表向きに過ぎず、実際に推進することはなかった<sup>21)</sup>。しかも、セラン県からセラン市を分離する動きが起きて、2007年7月にはセラン市設立法案が国会を通過するに及び、ヌリマンのセラン県での影響力はさらに弱体化した<sup>22)</sup>。そして、2010年にセラン県知事選に再出馬するに当たっては、ヌリマンは副県知事候補としてハサン・ソヒブの妹に当たるタトゥ・ハサナを選ぶことで、彼もまたラウ・グループの傘下に入った。

## (2) バンテン州知事選

2004年総選挙で福祉正義党はバンテン州で11.9%の得票率で第2党であったから、2006年11月のバンテン州知事選に出馬することは当然の選択であった。福祉正義党は組織としての統制力が強く、党の知名度は高いものの、浮動票を幅広く取り込めるような指導者はまだ誕生していなかった。そこで、福祉正義党は、知名度が高く資金的にも余裕のある人物を州知事候補に据えて、自党の幹部を副知事候補にする戦略を立てた。同党州支部が2月末の段階でも最も強く推していたのはタンゲラン市長ワヒディン・ハリムであった [RB 2006.2.28]。ワヒディンは、インドネシア大学を卒業して24歳で村長に選ばれた後、タンゲラン県官僚として郡長、官房長を経て市長に上り詰めた人物である。イスラーム説教ができるほど敬虔なムスリムであり、インドネシア拳術の知識もある。

そして、市長就任後は同市に多く住む華人との共存を強調しつつ、イスラーム的観点に基づく行政や教育の推進を図った<sup>23)</sup>。タンゲラン市を無味乾燥な工場地帯にとどめておかないよう市政改革を目指した。彼の発言を引用してみよう。「今のところは、人々がタンゲラン市に来るのは工場で仕事を探すためである。しかし、こうした状態は変えなければならない。人々がタンゲラン市に来るのは教育を受けるためだということにしないといけない」「工場主はタンゲラン市に法人税を支払うのではなく、ジャカルタに支払うのである。タンゲラン市に残るのは、産業廃棄物、汚染した環境、度を越えた大気汚染である。川はとてつもなく汚れ、交通渋滞はひどく、住民間の関係からは伝統的な宗教的価値観がなくなって寒々としたものとなり、インフォーマル・リーダーたちの役割は目に弱まってきている」 [Wahidin 2005]。

こうした発言から垣間見られるように、新しいタンゲラン市像を提供したことに加え、土・日は自宅をオープン・ハウスとして地域住民との対話を促進し、携帯電話メッセージ(SMS)による住民からの直接的意見聞き取りを行うなどポピュリスト的政策も推進したことから地域住民の広範な支持を得ていた。2005年にはイスラーム法のニュアンスがある反売春条例を公布していたことも福祉正義党の高い評価につながっていた<sup>24)</sup>。そして、ワヒディン自身も当初は州知事選出場に意

21) ヌリマンの助言者でもあったイワン・K・ハムダンとのインタビュー(2007年2月10日)。

22) 2008年8月にはセラン市長選が行われ、アトゥットバンテン州知事の異母弟で自称実業家のTb・ハエルル・ザマン(Tb. Chaerul Zaman)が副市長候補に出馬し、ゴルカル党幹部で前セラン県知事ブンヤミンを市長候補に仕立てて勝利を収めた。

23) ワヒディンの行政改革は次のように広範である。(1) 局長、プロジェクト・リーダーとの「責任契約」——毎月曜日、局長やプロジェクト・リーダーの成果報告、市長、副市長によるプロジェクトの直接視察、歳出監視、プロジェクトのパフォーマンス評価、(2) 業績の高い公務員——タンゲラン市誕生記念日などに表彰、(3) 「責任契約違反者」——降格などの制裁、(4) 教育重視——自治体予算の39%充当、214校建設プロジェクト(2005年3月～)、(5) 社会保障政策——貧困者の医療無料化、(6) 公衆衛生政策——デング熱対策(40億ルピアを投じて、登校時と夕方方に防蚊霧を噴霧・設置するなどのデング熱防止運動)、(7) ワン・ストップ・サービス導入。

24) この条例は次のような内容になっている。「誰であれ、その振る舞いや行動が疑わしく、彼・彼女/彼らは売春夫・婦であるという判断をもたせるような者は、次の場所においてはならない——一般道、広場、宿泊所・ロスマン・ホテル・下宿・住居・賃貸家屋・喫茶店・遊び場・映画館、道の隅、或いは、細い道その他。」「誰であれ、一般的な場所や公衆の前でセックスにつながるようないやなチャつき、抱擁、キスをしてはならない。ただし、誰がどのようにして監視するのか、具体的にどのように制裁を科すのか、明確な基準は設定できるのかなど問題は多く、象徴的な条例にとどまっている。

欲を見せていた。しかし、資金的に不十分であり、現職のアトゥットに勝るという確証を持ってなかったことから出馬をあきらめた。

州知事選出馬条件は、州議会で15%以上の議席、バンテン州議会なら12議席以上の議席を持つか、あるいは地方議会議員選挙で15%以上の得票率を獲得した政党あるいは政党連合が推薦していることである。福祉正義党の州議会での議席数は11議席しかない。そこで、民族党醒党や民主主義者党との連合を模索したが折り合いがつかず、7月30日に州議会に1議席を持つイスラーム同盟党 (Partai Syarikat Islam, PSI) と連立を組むことに決めた [RB 2006.8.1]。州知事候補としてはルバック県出身の銀行家ムフタル・マンダラ (Muchtart Mandala) やバンデグララン県出身の銀行家トリヤナ・シャムンなどの擁立も考えた。しかし、折り合いがつかず、また州内の同党支持者たちからは同党が同州では大政党であることから党幹部を州知事候補として擁立すべきとの強い声もあったことから、7月末には同党幹部で国会議員を務めるズルキフリマンシャを州知事候補として擁立することに決めた [RB 2006.7.28]。

2006年7月州知事候補になった時点でわずか34歳であったズルキフリマンシャはインドネシア大学でタルビヤ運動に関り、94年に学生部長に就任してタルビヤ運動が学生部に影響力を及ぼす契機を作った。その後、イギリスのストラスクライド大学経済学部で修士号、博士号を取得してインドネシア大学の講師になった人物である。西ヌサトゥンガラ州出身であるが、自宅がタンゲランにあることから2004年選挙ではタンゲラン地区から福祉正義党候補として立候補して当選を果たした。デボック市長選に出馬したヌル・マフムディ・イスマイルに続いて、州レベルでも党幹部が出馬することから、福祉正義党の選挙マシンはきわめて効率的に動くことが予想された。とりわけ、都市部でありバンテン人というエスニシティに基づく投票行動は弱く、福祉正義党の拠点であるタンゲラン県・市ではズルキフリマンシャへの支持は高くなることが予想された。従って、福祉正義党にとって次の課題は誰を副知事候補にするかであった。それは言い換えれば、誰と組めばバンテン州西部地方の票をより多く集めることができるかであった。

最初に有力候補となったのがチレゴン市長アアート・シャファートの息子イマン・アリアディとルバック県出身の有名喜劇俳優デディ・グムラル (Dedy Gumelar) (通称ミイン (Mi'ing)) であった。しかし、8月1日、最終的に有名女優マリサ・ハックを副知事候補として擁立することに決めた。イマン・アリアディに至っては、福祉正義党から副州知事候補にしたいとの申し出を受けて副知事候補に立候補表明までしておきながら候補になれなかった。福祉正義党がイマン・アリアディを選ぼうとしたのは、父親の影響でチレゴン市周辺の票を獲得し、また、ハサン・ソヒブに恩がある父親を取り込むことでラウ・グループの分断を図ろうと考えたからだと思われる。一方、喜劇俳優は地元のルバック県に限らず、下層階級の票につながると福祉正義党は考えたと思われる。しかし、マリサを選んだのは、彼女は闘争民主党员でありながら、闘争民主党での州知事候補選挙でゴルカル党员のアトゥットに負けて、別の党を探していたこと、マリサの知名度の高さから農村部や下層階級一般から支持を得られると判断したことがあった<sup>25)</sup>。また、夫がルバック県出身の有名ロック歌手であったから、バンテン南部の支持も獲得できる可能性があった。

8月23日に正式にズルキフリマンシャ＝マリサ組の出馬宣言が行われ、本格的に選挙キャンペーンを開始した。福祉正義党はジャカルタに次ぐほどの支持基盤をバンテン州に持つ。その州知事候補に自党の幹部を擁立したことから、福祉正義党の選挙マシンはきわめて積極的に機能した。福祉正義党が利用している調査機関の調査に基づいて、同党の幹部の7割が集中しているタンゲラン県・

25) ズルキフリマンシャとのインタビュー (2007年2月11日)。

市を中心とした38郡に力点を置いた選挙運動を展開した [RB 2006.7.19]。社会階層で言えば、ズルキフリマンシャは中産階級以上をターゲットとし、マリサは草の根レベルの住民の支持の獲得を目指した [RB 2006.11.4]。ズルキフリマンシャは学生運動の経験があり、選挙の仕方について知っているという自信はあっても、彼のスピーチは大卒以上向けにならざるを得なかった。草の根レベルの住民に理解しうる言葉ではなかった。一方、マリサは、(アトゥットがシリコン整形をしているという噂があることから)「私の頬はシリコン整形をしておらず本物よ」といった冗談交じりの対話を通じて低所得者層の支持獲得を図った。また、マリサは、有権者の過半数を占める女性をターゲットにしてイスラーム講話会 (Majelis Taklim) などに必ずしも地元出身者ではない若い女性たちを派遣してズル=マリサ組の支持を訴えさせた。その選挙運動の熱心さはアトゥット選対に脅威を感じさせるに十分であった。

選挙運動に要したコストは80億ルピアでラウ・グループが使った選挙費用の約3%でしかなかった。最終的には、アトゥット=マルズキ組の得票率が40.2%、ズル=マリサ組が33.0%であり、約7%の僅差で敗北した。福祉正義党のバンテン州における2004年総選挙の得票率が11.9%であったことからすれば、ほぼ単独で幹部を擁立した州知事選挙で33.0%の得票率は大躍進であるといえた。さまざまな選挙違反行為が他の候補者によって行われたという事実が投票所にいた福祉正義党シンパから報告があがってきていたが、福祉正義党はラウ・グループと露骨に対立するような姿勢をとらなかった [RB 2006.11.28; RB 2006.11.29; RB 2006.12.1]<sup>26)</sup>。ラウ・グループの政治的影響力を再認識し、その現状を踏まえた戦略をとる方向へと流れた。一方、ラウ・グループにとっては、この福祉正義党の大躍進は脅威とも魅力ともなり、タンゲラン県知事選で両者が連立を組むという政治的アクロバットを引き起こすことになった。

## 8. 政治的アクロバット——ジャワラとイスラーム主義勢力の連合

バンテン州における州知事選に続く首長選は、2008年1月に行われたタンゲラン県知事選であった。タンゲラン県知事イスメット・イスカンダールは、同県内で着実に政治経済的権力基盤を確立しており、その維持と拡大のためにも再選を目指した。イスメットは、アトゥットの州行政、ラウ・グループによる州政府の支配について公然と批判をしており、州知事でゴルカル党本部財務副部長もつとめるアトゥットとの関係はよくなかった。しかし、彼はゴルカル党県支部長を務めており、現職として知名度も高かった。2007年4月に福祉正義党系の世論調査機関「アクセス・リサーチ・インドネシア」が行った候補者となりそうな人物の知名度に関する調査では、52.8%の回答者がイスメットを知っており、二位のベンヤミン・ダフニーの32.1%を大きく引き離していた。そうしたことから、2007年8月上旬にゴルカル党県支部はイスメットを県知事候補として推薦することを決めた。イスメット自身は、彼とペアを組む副知事候補は、男性の政治家か官僚がよいと述べていた [RB 2007.8.7. 05:59:47; RB 2007.8.24. 06:10:04]。

タンゲラン県でゴルカル党、闘争民主党に次いで第3党であった福祉正義党は、イスメットの県政に強い不満を持っており、独自候補の擁立を考えていた。2007年4月時点で上記のアクセス・リサーチ・インドネシアが行った調査では、県知事候補となり得る福祉正義党幹部たちの知名度はきわめて低かったものの、5月時点で県支部は四名の幹部を県知事候補者にした。そして、6月には州支部決定により同党幹部でバンテン第2選挙区 (タンゲラン県・市) 選出の国会議員ジャズリ・

26) マリサ・ハク自身は州知事選の結果を認めず、そもそもアトゥットが州知事代行職を離職せずに選挙戦を戦い続けたことが選挙法違反であるとして裁判を起こした。そして、現在に至るまでアトゥットに対する批判が続いている。マリサとのインタビュー (2007年2月9日)。

ジュワイニ (Jazuli Juwaeli) を県知事候補とすることに決めた [RB 2007.5.14; RB 2007.6.7]。2007年4月時点で42歳であったジュワイニは、プサントレンで教育を受けた後、「イスラーム・アラブ科学院」(LIPIA)を卒業してジャカルタにあるアル・クルアーン教育学院 (Institut Ilmu Al-Qur'an) で修士号を取得した。タンゲランを中心としてバンテン各地で布教活動をしており、さらに民放でも説教を行っていたが、4月の時点での知名度は10.1%でしかなかった。

こうした知名度の低さから、福祉正義党としては、同党の統率のとれた選挙マシンでジュワイニを支援することに加えて、党外から「売り」となる副県知事候補をジュワイニのパートナーとして選ぶ必要性が高かった。ジュワイニ自身はタンゲラン県南部出身であることに加えて、福祉正義党の基盤も同県南部にあることから、同県北部に政治的基盤のある人物を副県知事候補とすることも当初は考えていた [RB 2007.4.17; RB 2007.7.5]。しかし、8月、ジュワイニは30歳のスダ女性アイリン・ラフマニ・ディアニ・ワルダナ (Airin Rachmany Diany Wardana) とペアを組むことになった。アイリンはハサン・ソヒブの長男ワワンの妻である。パラヒヤンガン大学在学中の1995年にバンドン市ミス・コンテスト、続いて西ジャワ州ミス・コンテストで優勝し、翌年のミス・インドネシアではトップにはならなかったもののミス・ツーリズム (Putri Pariwisata) 及びミス人気者 (Putri Favorit) に選ばれ、モデルとしても活躍した。ワワンと結婚した後、パジャジャラン大学法学部でビジネス法の修士号を取得し、公証人の資格も持つ。福祉正義党の県幹部としては、美貌かつ才女である上に資金力もあるラウ・グループの支持を得ているアイリンは格好のパートナーに映った [RB 2007.10.10]。しかも、アトゥットはゴルカル党本部の幹部でありながら公然とアイリンを支持する姿勢を打ち出しており、イスメットを支持するゴルカル党を分裂させることもできる可能性があった。また、2006年の州知事選の結果を見る限り、アトゥットはタンゲラン県北部と西部で票を集めており、同県南部で強い福祉正義党にとっては理想的であった [RB 2007.7.19]。

一方、ラウ・グループにとっては、現職のイスメットを引きずり下ろしてバンテン州の政治経済的基盤を盤石なものとする上で候補者の擁立は不可欠であった。アイリンを候補に立てることは、バンテン州知事選の際にタンゲラン県でアトゥットを支持させていた時点から決まっていたように思われる。しかし、4月の世論調査ではわずか1.4%の回答者しかアイリンを知らず、しかもイスメットがゴルカル党の推薦を受けて立候補することは確実であったから、大政党からの候補をパートナーとすることは不可欠であった。アイリン自身は開発統一党 (PPP) のバンテン州支部の法務・人権局長になることに成功した。そして、開発統一党から副県知事候補になることを目指した。しかし、PPPのタンゲラン県支部では現職のイスメットを支持する声が高く、その試みは失敗する。さらに、アイリンは闘争民主党 (PDIP) から副県知事候補として推薦を受ける試みも失敗した。PDIPも現職支持に回ったからである。こうして同県のゴルカル、闘争民主党、開発統一党といった大政党が現職支持に回る中で、アイリンは最終的に福祉正義党のジュワイニとペアを組むことに決めた。福祉正義党内では、とりわけ州支部やセラン県支部からラウ・グループと組むことについて強い反対の声が上がっていた。そこで、ワワン本人が同党の州支部を訪れてアイリンと組むように求めた。ワワンは、福祉正義党幹部たちに対して、これまでのラウ・グループの非を認め (keinsafan)、罪の継承 (dosa turunan) は起きないと約束して支持を求めた。また、バンテン有志連合から投票所で開票作業をチェックする証人たちを供出するし、その費用も負担するという提案を行った<sup>27)</sup>。こうした提案を受けて、福祉正義党はアイリンと組むことに決めた。

2007年9月9日、福祉正義党以外に5つの小政党 (月星党 (PBB)、改革の星党 (PBR)、イン

27) アリフ・キルディアットとのインタビュー (2009年4月1日)。

ドネシア信徒連盟統一党 (PPNUI)、インドネシア同盟党 (PSI)、民族憂慮職能党 (PKPB) の支持を受けて、タンゲラン正副県知事候補としてジュワイニ=アイリン組の発足式が行われた [RB 2007.9.10]。ここに福祉正義党が昨日までのライバルであったラウ・グループと組むという政治的アクロバットが実現した<sup>28)</sup>。

現職のイスメットは、ゴルカル党、闘争民主党、国民信託党、開発統一党といった有力政党など合計 15 政党から支持を受けて盤石な基盤を作っていたものの、この福祉正義党とラウ・グループの連合という政治的アクロバットを受けて敗北の可能性が高くなった。そこで、男性の政治家が官僚を副県知事候補として選択するという前言を突如として翻した。そして、10月26日には俳優ラノ・カルノ (Rano Karno) を副県知事候補として担ぎ出すことに成功した [Tempointeraktif.Com 2007.10.26]。1960年生まれのラノ・カルノは、ジャカルタ生まれの庶民の生活を描いた人気連続テレビ番組「シ・ドゥル」の主人公ドゥルとして知名度がきわめて高く、イスメットは明らかにその人気を利用して県知事選で勝利することを狙っていた<sup>29)</sup>。

イスメットは官僚機構とラノ・カルノの知名度を選挙戦で積極的に活用する一方、ジュワイニ=アイリン組は福祉正義党とラウ・グループの選挙マシンによる選挙キャンペーン、ポスターや横断幕による宣伝に加えて、連日、イスメット=ラノ・カルノ組を遙かにしのぐ形で全国テレビや新聞などで大々的に選挙キャンペーンを展開した。アイリンはモデル時代の西洋風の服装から一変して、極めて敬虔なムスリムであることを示すためにジルバブをかぶって選挙戦に臨んだ。女性票の獲得に尽力して「アイリンそっくりさんコンテスト」まで行った。そして目玉プログラムとして、ジュワイニ=アイリン組は小学校から中学校までの授業料免除、保健所での無料診療を訴えた。その結果、11月の世論調査ではイスメットの知名度 69.2%、ラノ・カルノの知名度 69.9%に対して、ジャズリ・ジュワイニの知名度は 64.7%、アイリンの知名度は 73.1%にまで急上昇し、さらに支持率はイスメット=ラノ・カルノ組の 32.6%を上回る 35.6%に急上昇した。

しかし、翌年1月20日に行われた投票では、ジュワイニ=アイリン組は 39%の得票率を獲得したのに対してイスメット=ラノ・カルノ組は 56%の得票率を獲得し、福祉正義党とラウ・グループは敗北を喫した。その理由の一つは、有権者にとって最重要の課題は貧困対策であるにもかかわらず、教育・保健分野に重点を置いたという戦略的ミスもある。しかし、より重要なことは、2004年に福祉正義党に投票した有権者の一部がイスメット=ラノ・カルノ組に票を投じたことである。福祉正義党の選挙地盤のあるタンゲラン県南部で県知事選直前に行われた世論調査では、2004年に福祉正義党に投票した有権者でジュワイニ=アイリン組に投票したのはわずか 38.4%であり、28.8%がイスメット=ラノ・カルノ組に票を投じ、非回答者は 31.5%に達した。福祉正義党支持者は一般に同党候補者への支持率が高いにもかかわらず、タンゲラン県知事選ではジュワイニ=アイリン組への支持率はきわめて低かった。その理由はまず何よりも、反汚職キャンペーンを繰り広げて実績もある福祉正義党が、州知事選ではライバルであり、その政治経済権力の乱用ぶりは目に余るラウ・グループと連合を組むという政治的アクロバットに福祉正義党支持者が失望したことである。

28) PPP 県支部は正式には現職のイスメットを支持していたものの、郡レベルの幹部たちのなかには9月のジュワイニ=アイリン組発足式に出席した者もいた [RB 2007.9.10]。さらに、12月には、ディミヤティナタクスマ・PPP 州支部長は県支部長を更迭して、同県支部のイスメット支持を辞めさせ、ジュワイニ・アイリン組支持に回らせた [Koran Indonesia 2007.12.2]。

29) ラノ・カルノ自身は2007年8月に行われた首都ジャカルタの首長選でも出馬を考えたことがあり、政治家になる野心は持っており、イスメットはそれゆえに彼を担ぎ出すことができた。

## おわりに

1999年選挙に都市中間層の若手からなるイスラーム主義政党として登場した正義党は、清廉なイメージを保ちつつ、党勢拡大のために穏健なイスラーム主義政党であることを強調し、2004年では全国で7.4%、バンテン州においては11.4%の得票率を獲得して第2党にまで躍進することに成功した。州議会でもラウ・グループに対する露骨な批判が建設的なバンテン州の開発をもたらさないという認識から穏健な路線に転換していった。そして、バンテン州知事選においてラウ・グループの物量作戦の前に敗北した福祉正義党は、タンゲラン県知事選ではラウ・グループと連合を組んでまで勝利をもくろむという現実路線を進めていった。結局のところ、タンゲラン県知事選では敗北したとはいえ、イスラーム国家樹立を「隠された意図」として抱いているのではないかと疑われ続けているイスラーム主義政党が現実主義路線を突き進め、政党政治の枠組みで権力奪取を図るだけでなく、その方法としてラウ・グループとの連合に象徴されるように、あらゆる勢力と手を組むことを辞さなくなった。イスラーム主義だけを支持基盤としていても限界があるという判断からこうした政治的アクロバットが起きたとはいえ、このあまりに現実的な姿勢は、福祉正義党成立当初のイデオロギーから見れば逸脱であり、敬虔なイスラーム教徒の反発を買った。しかし、同様のイスラーム色の脱色はナショナル・レベルでも起きており、福祉正義党がイデオロギー政党、幹部政党から大衆政党へと変容を遂げようとしていることがわかる。2004年総選挙結果と2009年総選挙結果を比べてみると、他のイスラーム政党が軒並み得票率を落としたのに対して、同党がわずかとはいえ得票率を延ばすことができたのは、この試みがあながち間違いではなかったということなのかもしれない。

社会全体としてイスラーム色が強まり、与党の民主党や野党の闘争民主党ですらイスラーム票の取り込みを図ろうとするなか、もっぱらイスラームを武器とするだけの政党の魅力はますます乏しくなっており、大政党化の見込みは薄くなった。福祉正義党の現実主義路線は、イスラーム化したインドネシア社会のなかでイスラーム政党が弱体化するというこのパラドックスを超越する一つの試みであった。しかし、この路線を突き進めば突き進むほど、敬虔なイスラーム教徒で熱心な同党シンパからの支持を失うジレンマを抱えており、短期的にはともかく、中長期的にはタンゲラン県知事選のときのようなことが全国的に起きて、結局は何の魅力もない普通政党に成り下がってしまいかねない。とはいえ、2010年6月にジャカルタの五つ星ホテル、リッツ・カールトンで行われた第2回全国大会においては、福祉正義党を「開かれた政党」にすることでさらなる支持基盤拡大を狙うことを決めており、現実主義路線はとどまる気配がない。実際、2010年11月に行われたバンテン州の南タンゲラン市（2008年10月新設）の市長選では、福祉正義党はラウ・グループが擁立したアイリン（ハサン・ソヒブの妻）を積極的にサポートして当選に導いたのである。

※ 本研究は、文科省科学研究費助成金基盤研究（A）「環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理」に加え、独立行政法人日本学術振興会の「アジア研究教育拠点事業」の助成を得た。

## 参考文献

- 岡本正明 2001「改革派に転向したスハルト期地方エリートたち——バンテン州新設の政治過程に焦点を当てて」『アジア・アフリカ地域研究』1(1), pp.186–211.
- 2005「インドネシアにおける地方政治の活性化と州「総督」の誕生——バンテン地方の政治：1998–2003」『東南アジア研究』34(1), pp.3–25.
- 2006「分権化に伴う暴力集団の政治的台頭——バンテン州におけるその歴史的背景と社会的特徴」杉島敬志・中村潔(編)『現代インドネシアの地方社会——マイクロロジーのアプローチ』NTT出版, pp.43–66.
- 2010「第4章、政党、候補者の「創造」——民主化と選挙コンサルタント業」本名純・川村晃一(編)『2009年インドネシア総選挙と新政権の行方』pp.73–90.
- 見市建 2005「イスラーム票はどう動いたか——南カリマンタン州における福祉正義党の躍進から」松井和久・川村晃一(編著)『インドネシア総選挙と新政権の始動——メガワティからユドヨノへ』明石書店, pp.343–362.
- Abdur Rozaki. 2010. “The Pornography Law and the Politics of Sexuality,” In Ota Atsushi, Okamoto Masaaki and Ahmad Suaedy (eds.), *Islam in Contention: The Rethinking of Islam and State in Indonesia*. Jakarta: CSEAS, CAPAS and Wahid Institute, pp.121–138.
- Ahmad-Norma Permata. 2008. “Ideology, institutions, political actions: Prosperous Justice Party (PKS) in Indonesia,” *ASIEN* 109 (October), pp.22–36.
- Anis Matta. 2002. *Menikmati Demokrasi: Strategi Dakwah Meraih Kemenangan*. Jakarta: Pustaka Saksi.
- Danmanik, Said Ali. 2002. *Fenomena Partai Keadilan: Transformasi 20 Tahun Gerakan Tarbiyah di Indonesia*. Jakarta: Teraju.
- Eriyanto. 2007. “Pilkada DKI Jakarta dan Efektifitas Koalisi Partai,” *Kajian Bulanan (Lingkaran Survei Indonesia)* Edisi 04-Agustus, pp.1–31.
- Fealy, Greg. 2008. “Indonesia: Pietism and Compromising for Power,” In Anthony Bubalo, Greg Fealy and Whit Mason. *Zealous democrats: Islamism and Democracy in Egypt, Indonesia and Turkey*, New South Wales: Lowy Institute, pp.49–74.
- Hilmi Aminuddin. 2007. *Menghilangkan Trauma Persepsi*. Jakarta: Arah Press.
- Imdadun Rahmat, M. 2008. *Ideologi Politik PKS: Dari Masjid Kampus ke Gedung Parlemen*. Yogyakarta: LKiS.
- Okamoto Masaaki and Abdul Hamid. 2008. “Jawara in Power, 1998–2007,” *Indonesia* 86, October, pp.109–138.
- Okamoto Masaaki. 2010. “Rise of ‘Realistic’ Islamist Party, PKS in Indonesia,” In Ota Atsushi, Okamoto Masaaki and Ahmad Suaedy (eds.), *Islam in Contention: The Rethinking of Islam and State in Indonesia*, Jakarta: CSEAS, CAPAS and Wahid Institute, pp.214–248.
- Partai Keadilan Sejahtera (PKS). 2005. *Senam PKS Nusantara* (VCD). Jakarta: DORA (Departmen Olahraga) Production.
- . 2008a. *Ringkasan Platform dan Isu-isu Nasional*. Jakarta: Majelis Pertimbangan Pusat Partai Keadilan Sejahtera.
- . 2008b. *Memperjuangkan Masyarakat Madani*. Jakarta: Majelis Pertimbangan Pusat Partai Keadilan

Sejahtera.

- Syarif Hidayat. 2003. “‘Shadow State’?: Business and Politics in the Province of Banten,” In Edward Aspinall and Greg Fealy (eds.), *Local Power and Politics in Indonesia: Decentralisation and Democratisation*, Singapore: ISEAS. pp.203–224.
- Tifatul Sembiring. 2007. *Dakwah Adalah Perubahan ke Arah yang Lebih Baik*. Jakarta: Arah Press.
- TPPN (Tim Pemenangan Pemilu Nasional) PKS (Partai Keadilan Sejahtera). 2008. *Buku Saku Pemenangan Pemilu 2009: Kader PKS Mewujudkan Iman dengan Amal Siyasi untuk Kesejahteraan Bangsa*. Jakarta: TPPN PKS.
- Yudi Latif, Aay Muhamad Furkon and Edwin Arifin. 2005. *Partai Keadilan Sejahtera. Final Report. (Studi Monografi Partai Politik)*. Jakarta: Reform Institute.
- Wahidin Halim. 2005. *Ziarah Budaya Kota Tangerang: Menuju Masyarakat Berperadaban Akhlakul Karimah*. Jakarta: Pendulum.

### 新聞・オンライン新聞

- Harian Banten* (HB) 2004 (3.23a). “Dua Pentolan PAN Pindah ke PKS.”
- . 2004 (3.23b). “PKS Rekrut Jawara.”
- . 2004 (4.1). “PKS Mau Berantas KKN.”
- Inilah.com* (www.inilah.com) . 2008 (5.26. 07:08) “PKS Sudah Menangi 91 Pilkada.”
- Kompas*. 2003 (12.6). “Empat Anggota DPRD Banten Kembalikan Dana Perumahan.”
- Koran Indonesia*. 2007 (12.2). “PPP Tangerang Cabut Dukung Ismet-Rano Karno.”
- Radar Banten* (RB). 2006 (2.10). “FPKS: Janji Taufik-Andy Memang Belum Terwujud.”
- . 2006 (2.28). “PKS Tepat Pilih Wahidin Halim.”
- . 2006 (4.26). “2 Fraksi Tak Dapat Jatah Ketua Komisi.”
- . 2006 (7.19). “Ada Kemungkinan Koalisi PKS-PD Batal.”
- . 2006 (7.28). “Koalisi PKS-Demokrat Terancam Batal.”
- . 2006 (8.1). “PKS Gandeng PSI Usung Paket Pilgub.”
- . 2006 (11.4). “PKS Fokuskan di 38 Kecamatan.”
- . 2006 (11.28). “PKS Adukan Kecurangan Pilkada.”
- . 2006 (11.29). “PKS Konsultasi ke Adnan Buyung.”
- . 2006 (12.1). “Jadi Gubernur Bukan Cari Kekayaan.”
- . 2007 (4.17). “PKS Bidik Tokoh Pantura.”
- . 2007 (5.14). “Tutup Peluang Incumbent, PKS Usung Kader.”
- . 2007 (6.7). “Terbuka koalisi.”
- . 2007 (7.5). “PKS Maksimalkan Jaringan Struktur Dalam Partai.”
- . 2007 (7.19). “Jazuli Juwaeni Dipastikan Didampingi Airin Rachmi.”
- . 2007 (8.7. 05:59:47). “Calon Pendamping Ismet Bukan Perempuan.”
- . 2007 (8.24. 06:10:04). “Ismet Masih Tunggu Survei Calon Pendamping.”
- . 2007 (9.10). “Pasangan Jazuli-Airin Resmi Dideklarasikan.”
- . 2007 (10.10). “Tanggapan Atas Tulisan Saudara Anis Fuad.”
- Tempointeraktif.Com*. 2007 (10.26. 14:02). “WIB: Aktor Rano Karno Jadi Calon Wakil Bupati Tangerang.”

*Tribun Timur*. 2008 (12.18). “Partai Kroni Suharto.”

**雑誌・タブロイド紙**

*Monitor* Edisi 37. Tahun I. 2009 (3.11–17). “Sabit Kembar di Simpang Jalan.”

*Saksi*. no.10 Tahun VI. 2004 (3.17). “Investigasi: Cara PKS Bela Buruh Banten,” pp.52–61.

*Tempo*. 2008 (11.17–24). “Manuver Politik Fraksi Sejahtera,” p.32.